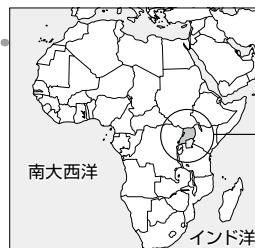


# ユニセフ子ども物語

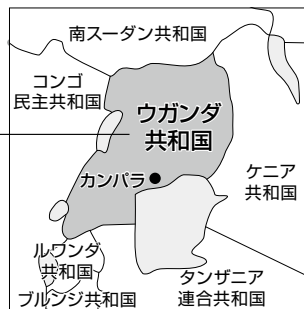
## 地球に生きる子どものくらし

Republic of Uganda

### ウガンダ共和国



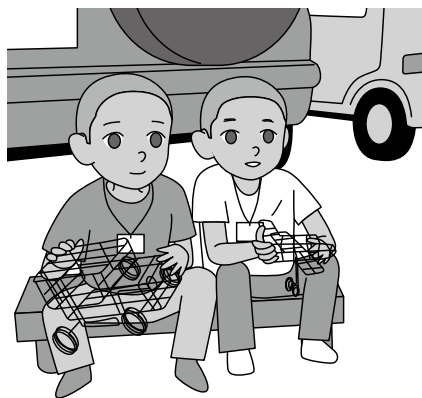
地図は参考のために掲載したもので、  
国境の法的地位について何らかの立場を  
示すものではありません。



## 市場で出会った子どもたちの生活

ウガンダの首都カンバラのあるおしゃれなカフェの庭で、毎週土曜日の朝に市場が開かれています。市場では、ワインのグラスを加工した花びんやコースター、色とりどりの手芸品、手作りのパスタやケーキ、それから、みずみずしいとれたて野菜が人気です。お客さんは主に外国からの人たちで、街中にある市場とはちがって、少し静かな市場です。

市場の出入り口で、お客さんに声をかける男の子が二人います。ジョンくん（13歳）とマイケルくん（14歳）です。「こんにちは」「いらっしゃいませ」二人が売ろうとしているのは、自分たちでつくったおもちゃの車です。おもちゃの車は、太めの針金でできています。



二人とも家族はいないので、孤児院で暮らしています。「ボダボダ」と呼ばれる、バイクのタクシーに乗って30分かけてこの市場にやってきました。「僕たち、毎日学校が終わったあと、針金をつかっておもちゃを作るんだよ。それで週末にまちへ売りに来てるんだ」とジョンくん。「一つのおもちゃをつくるのに、だいたい5時間かかるよ。針金は上級生が用意してくれるんだ。一つ売れば15,000シリング（約600円）なんだけど。ボタボタの運賃は2人で往復10,000シリング（約400円）だから、がんばって売らなくちゃ」とマイケルくん。

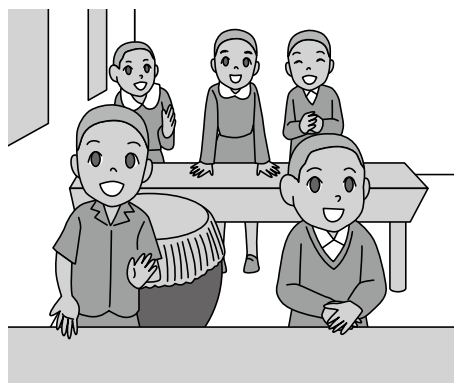
この日は朝9時から頑張っているのですが、夕方になっても一つ

も売れません。ようやく、市場の閉まる時間になって、小さな子どものいるお母さんが一つ買ってくれました。「今日はあんまり売れなかったな」とジョンくん。

ジョンくんとマイケルくんは小学生です。「僕は英語の授業が好き」とジョンくん。マイケルくんは、「僕は算数が好きだよ、でも授業で少しでも間違えると先生がぶつんだ。テストの点数が悪いとむちを使うんだよ。勉強は好きだけど、学校が終わると働かなきゃいけないから、あんまり勉強の時間がとれないんだよ」と悲しそうにうつむきます。

マイケルくんが話してくれたように、学校の先生から体罰を日常的に受ける子どもが、ウガンダの小学校にはまだまだたくさんいます。法律で「先生は体罰をやめるように」というきまりができていますが、すべての学校で守られていません。

ユニセフはウガンダ政府と協力して、学校の先生や警察、地域の大人、家族が子どもへの体罰をはじめとする暴力を減らすために、どのような取り組みをしたらよいかを考えるための話し合いの場をつくったりしています。学校そして家庭で、ジョンくんやマイケルくんのような子どもたちが、より安全な場所で安心して勉強ができ、友だちをつくり、遊べるように、ユニセフとウガンダ政府はこれからも力を合わせて活動をしていきます。



< 文・構成 / (公財) 日本ユニセフ協会、  
協力 / 松本依子 (2012年度海外インターン生) >

## 物語の国 ウガンダ共和国

ウガンダ共和国は、アフリカ東部に位置する国で、ケニア、タンザニア、ルワンダ、コンゴ民主共和国、南スーダンに囲まれた内陸国です。首都カンパラは、アフリカ最大の湖、ビクトリア湖に接しています。赤道直下にある国ですが、平均高度が1200mと標高が高いため、年間平均気温は23度前後しかありません。また、降雨量が多く緑豊かな国で、イギリスの元首相チャーチルに「アフリカの真珠」と呼ばれました。



©UNICEF/UGDA201300462/  
Proscovia Nakibuuka

# 子どもが安心して学校に通えるように

2012年度海外インターン派遣事業で、ユニセフ・ウガンダ事務所の教育セクションで2013年9月から12月まで約4か月間インターンをされた松本依子さんに、ウガンダの教育における課題やユニセフ・ウガンダ事務所の活動について報告いただきました。



©Yuriko Matsumoto

## ウガンダの教育における課題

ウガンダの小学校の入学率は男女ともに90%を超えるほど高いのですが、先生の教え方がよくない、また、「子ども物語」のジョンやマイケルのように、学校での暴力が日常的にあるといった問題があります。その結果、途中で学校をやめてしまう子どもたちも多く、小学校の最終学年まで残る割合は25%しかありません。そこで、子どもたちが安心して安全に学校に通えるために、ウガンダ・ユニセフ事務所では次のような活動を行っています。

### ウガンダの子ども

(より詳しい統計は、「世界子供白書2014」をご覧ください)

| 項目  | ウガンダ       | 日本     |
|---|------------|--------|
| 5歳未満児死亡率(2012年、1000人中)                      | 69         | 3      |
| 改善された飲用水源を利用する人の割合(%) (全国、2011年)            | 75         | 100    |
| 改善された衛生施設を利用する人の割合(%) (全国、2011年)            | 35         | 100    |
| 就学前教育 総就園率(%) (2008-2012年)                  | 男14<br>女14 | —      |
| 初等教育 純就学率(%) (2008-2011年)                   | 男93<br>女95 | —      |
| 小学校に入学した生徒が最終学年まで残る割合(%) (2008-2011年、政府データ) | 25         | 100    |
| 1人あたりの国民総所得(米ドル)(2012年)                     | 440        | 47,870 |

出典:「世界子供白書2014」

## 子どもに対する暴力を防止するための研修

ウガンダでは数々の子どもに対する暴力に関しての法的な枠組みがあるにも関わらず、子どもに対する暴力が社会的に広く容認されていて、学校内での児童・生徒に対する暴力も日常的にみられる状況です。2010年の調査では、実に91%もの小学校3年生の児童が先生からの暴力を経験したことがあると回答し、小学6年生もその率は88%と高いものでした。また学校内で性的被害にあったと回答した児童が小学3年生で6%、小学6年生で7%おり、また調査対象の98%の生徒が肉体的または精神的暴力を過去に経験したことがあると回答しています。

先生から学校内で体罰を受ける理由としては、遅刻や騒がしい、授業の趣旨を児童・生徒が十分に捉えられていないなどがあります。体罰の具体例としては、棒でうつ、平手でうつ、蹴る、つねるなどです。

そこで、教育スポーツ省は、ユニセフ・ウガンダ事務所と共同で、体罰に替わる指導法の冊子と教師の行動規範の冊子をウガンダの小学校全校(約



©Yuriko Matsumoto  
教育スポーツ省主催による研修会

20,000校)へ配布しました。また、470名の教育大学の指導者、12,000名の小学校の教員および150名の自治体レベルの学校事業担当職員を対象に、安全な学校づくりのための研修を実施しました。現在までに全小学校の75%と全教育者養成の指導者63%への研修を実施することができています。

## 子どもたちへの啓発活動

子どもへの体罰を容認する社会を変えていくために、個々人の意識改革が重要となっています。ユニセフ・ウガンダ事務所では、子どもたち自身が自尊心を高め、暴力は不当であることを認識し、勇気を持って立ち向かえるように、子どもたちへの啓発活動を演劇や歌、ダンスを通じて推奨しています。8月には、多くのメディアが集まる会場で、教育スポーツ省の職員や国会議員を前に、子どもたち自身がダンスや演劇を行い、子どもの暴力防止を訴える力強いメッセージを発信してくれました。



©Yuriko Matsumoto

8月に行われた「子どもの暴力防止の日」のイベントで、ダンスを披露する子どもたち

## 安全なトイレの設置

ユニセフ・ウガンダ事務所では、女の子も安心して使えるトイレの設置も支援しています。学校の設備を整えることで、子どもたちが学校へ通いやすくなるからです。特に、女の子の就学率を上げるためには、女の子用のトイレが学校にあることは重要です。特に思春期に入る女の子は、女の子用のトイレがないため学校に通わなくなってしまう子どもたちもいます。見学したある学校のトイレは、勉強をする棟とは別棟にトイレだけが建てられていました。トイレは個室式で4~8室ほどからなります。一般的に、ウガンダのトイレは、個室の中に長方形の楕円形の穴があいていて、その中に用を足す形式です。日本の昔の汲み取り式トイレのようになっていて、トイレの施設の裏にはし尿を集めるための穴があいてあり、農作物の肥料に使えるようにしています。



©UNICEF/UGDA2010-00313/  
Shehzad Noorani  
小学校に建てられたトイレ

## 就学前教育

小学校を卒業する子どもたちを増やすためには、子どもに対する暴力を防ぐことも大切ですが、小学校に入ってから勉強に子どもたちがついていけるように手助けすることも大切です。そのため、ユニセフ・ウガンダ事務所は就学前教育の普及に力を入れています。就学前教育は3~5歳の子どもたちを対象に行われています。小学校入学前から就学前教育を受けることによって、就学時期に遅れることなく小学校への入学がスムーズに行われること、そして、小学校を中退や留年せずに7年間の小学校教育をきちんと終えられるようになることが期待されています。この就学前教育の施設はECDセンター(Early Childhood Development Centres)と呼ばれていて、地域に根づいた機関によって運営されています。



©UNICEF/UGDA2012-00563/  
Proscovia Nakibuuka  
ECDセンターの遊具で楽しく遊ぶ子どもたち